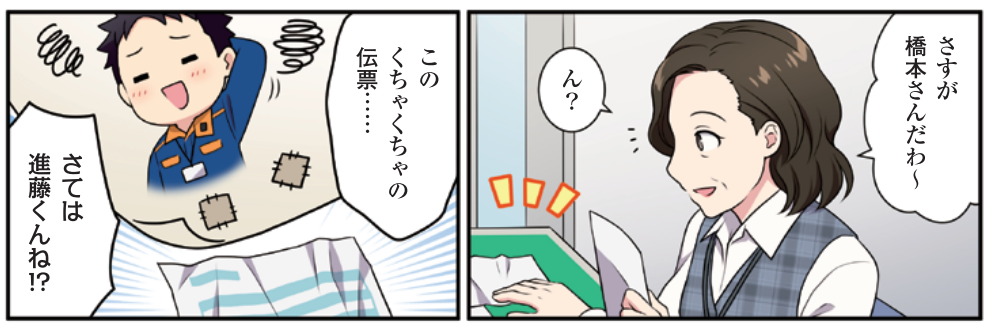
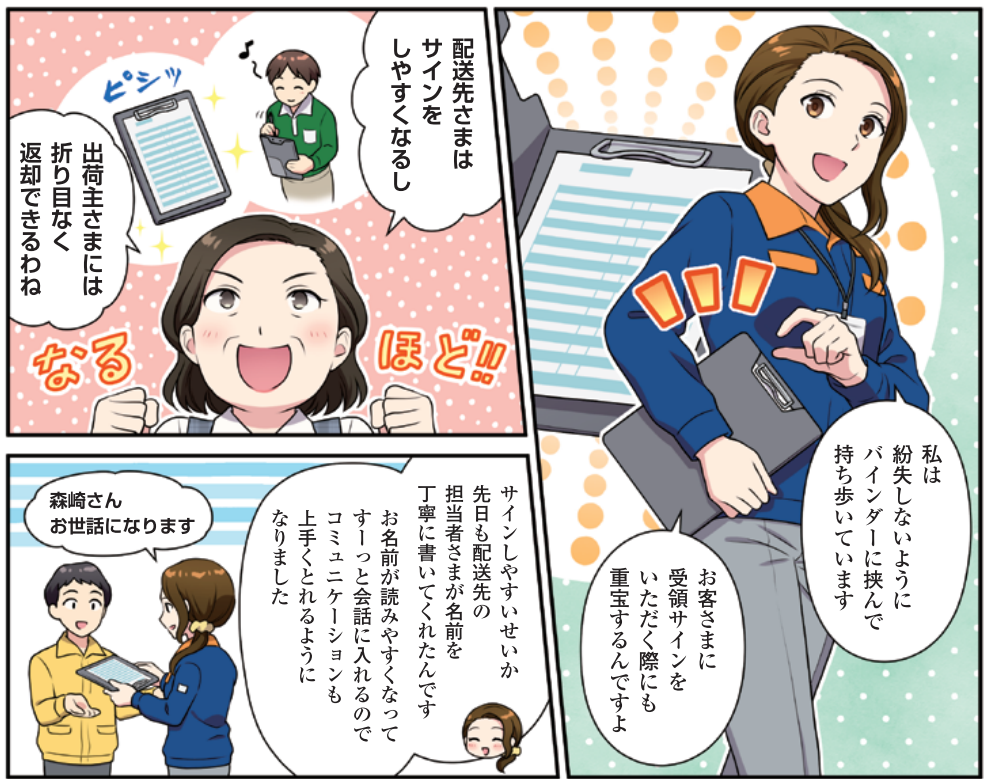


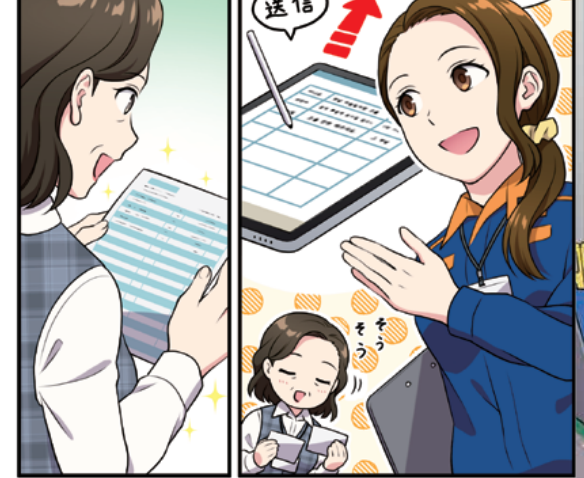
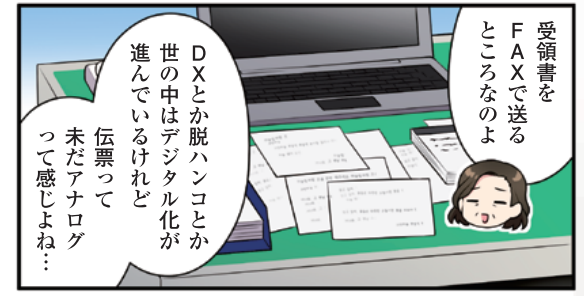
・・・今日も快晴!・・・
トラックドライバー
日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第11話
伝票も大切な商品



次で「伝票の扱い方」について解説!



伝票は「見るもの」だけではなく「読むもの」

伝票に記載されているのは文字と数字。
だからしっかり見る、そして声に出して読む!



伝票に記載されているのは文字と数字ですから、しっかり見るだけではなく声に出して読み、指差呼称確認の対象にしましょう。出荷主による伝票の記載間違いがあっても、伝票を受け取った際に、その場で記載内容を声に出して読み上げること、担当者が間違いないかといった場合には感謝されます。

また、小売店への配達時には、伝票に仕入れ先名や仕入れ単価が記載されていることも多いもの。伝票の誤納入は営業情報の流出が懸念されることから、顧客からの信頼に悪影響が及びます。さらに個人宅への配達時には、携帯電話番号をはじめ、購入品から嗜好も判別できるようなさまざまな個人情報に記載されている場合があるので、商品だけでなく伝票も誤納入がないように、指差呼称確認で対応しましょう。

伝票は「指差呼称確認」の対象

伝票は「大切な商品」と思って扱おう



マンガ制作: ad-manga.com

たかが伝票、されど伝票

受領書を積極的な訪問のきっかけに

早い返却は、訪問の機会を創出する上、
「出荷主からの問い合わせを削減できる」メリットもあります。



大切な受領書が大量にある場合、出荷主に定期的に郵送したりドライバーが積み込みに入る際、都度返却したりすることが多いと思います。そこで次は、管理者が訪問して直接返却するのはいかがでしょうか?

近隣顧客なら「近くに寄りましたので、受領書をお返しにきました」と言えば「わざわざありがとうございます」と喜んでくれます。続けて「ご担当者さまはいらっしゃいますか?」と尋ねてみてください。受領書の担当者とは「出荷した人(部署)」であり、日頃から発注している人と会う機会も得られます。

また自社内では返却の受領書が複数枚ある場合ほど、切手代や保管場所がかさみ手間もかかります。よって、管理者による受領書の返却は社外だけでなく、社内でも喜ばれるのです。

社内外で喜ばれる! 管理者による受領書の返却

運送会社のドライバーが配達先に届けるのは、商品だけではなくありません。配達先に渡す伝票(送り状)も、出荷主(荷主企業)から預かった「大切な商品」として届けましょう。

伝票には、住所や担当者の名前はもちろん、納品日時に関する情報も記載されていることから、配達先に間違いなく届けるための「羅針盤」ともいえる機能を担っています。さらに、初めて何回配達先においても、構内に入場する際に「守衛に見せる」「通行手形」のような機能があるのです。

そして、ドライバーが出荷主に必ず返す伝票(受領書)もまた、「大切な商品」です。特に受領書は「金券」と考え、新札の紙幣と同様の状態で返却すること。紛失や汚損を避けるのももちろん、折り返し目がない状態で出荷主に返却すれば、商品が出荷された状態で配達完了した証になります。同時に、「他社との差別化や」自社の好感度を上げる「戦略のひとつにもなるため、伝票も商品と同様に扱うことが大切だといえるのです。」

「伝票は「羅針盤」であり」「通行手形」であり「金券」

文字と数字の羅列だけではない伝票。
商品と同様、大切に扱いましょう!

高柳 勝二 (たかやなぎ かつじ)

株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い“提案型”研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。